

北浦の観天望気

山口県北部沿岸

日本海、北浦の海は
ぶち綺麗なほっちゃ。

おいでませ、長門・萩方面へ
青い海をゆつくり
眺めんさいーね。

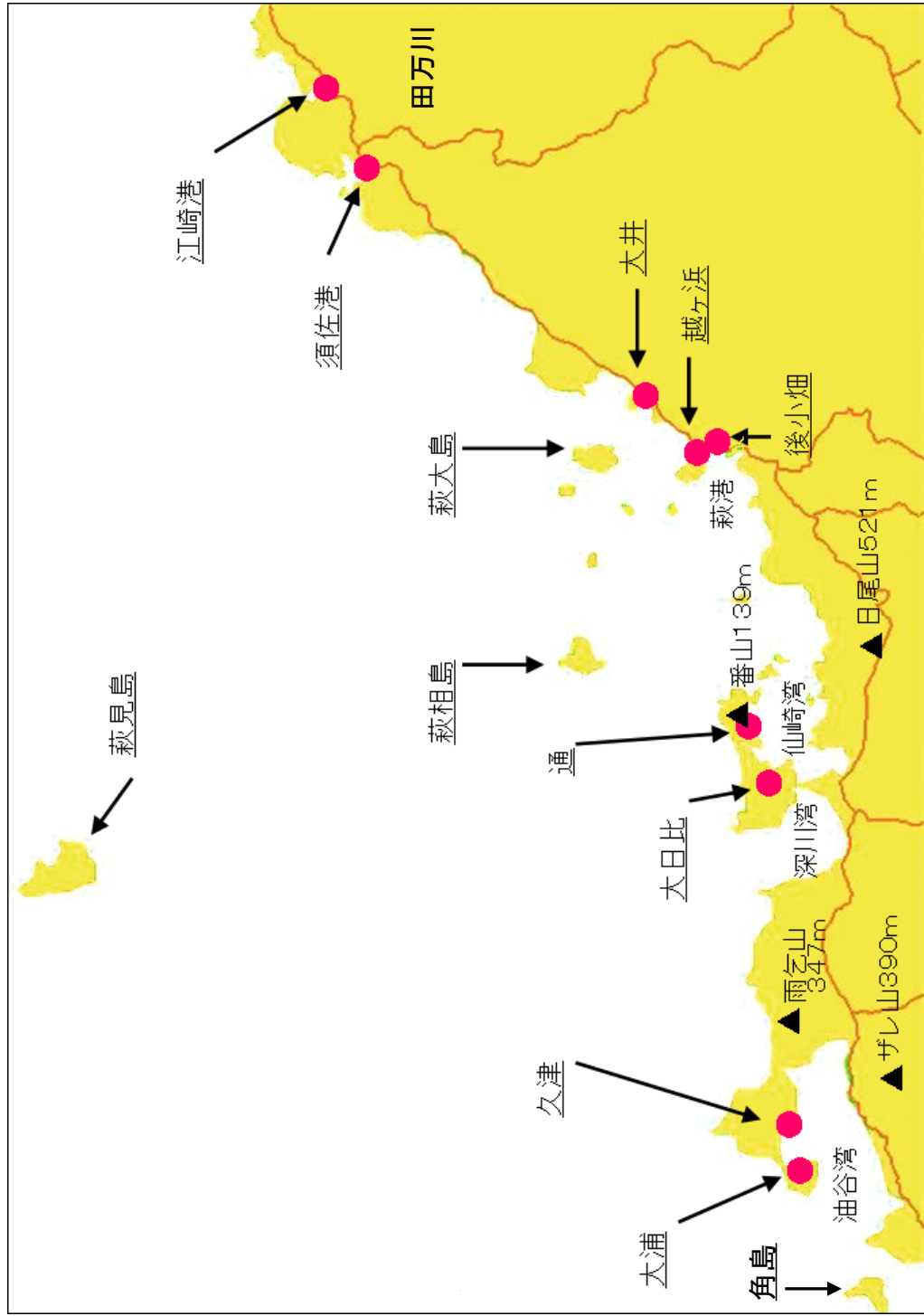
油谷湾 油谷港俵島灯台

釣りやマリンレジャーを楽しむ
ときは、ライフジャケットを着用し、
気象・海象の急変、高波に十分
注意しましょう。



仙崎海上保安部
萩海上保安署

北浦地区(山口県北部沿岸)



観天望気とは

自然現象や生物の行動の様子などから天気を予想することであり、付近の空の雲行きや空模様を見るとか、日がさ、月がさ、朝焼け、夕焼け、海鳴り、山の上にかかる雲などを観察して天気の変化を判断するものです。

湿度や雲の構成などから、正確性が証明できるものも多く海や山での天候の急激な変化や、局地的な気象現象をつかむために役立ちます。

仙崎海上保安部では、北浦地区(山口県北部沿岸)での、釣りやマリンレジャーを愛好される皆様の海難防止に少しでも役立つよう、北浦各地における古くから地元の方々に伝えられた「観天望気」資料のほか、「海の豆知識」、「海の情報」等、海の安全に資するための資料をまとめました。

マリンレジャーを安全に楽しんでいただくためにも、どうぞ参考にしてください。

天候が悪くなる言い伝え

仙 崎 地 方

◎通漁師の言い伝え

- ・夏、西の空が真っ黒になれば、はやて(雷雨)が来る。
- ・番山(通地区の裏山)頂上の木が揺れていれば、海上は時化ている。
- ・日没時、火の子(太陽の周りの一部に虹色がつく)が出れば、天候が悪くなる。
- ・竜巻雲が地上(海上)まで降りたら危険。竜巻雲の裏側に回り回避する。
- ・日出時の火の子(烏帽子)はめったになく、かなり大荒れとなる。



太陽の周りの火の子
(「ウィキペディア」より)

◎大日比漁師の言い伝え

- ・三見の山(日尾山)の山頂に雲がかかれば北風が強くなる。
- ・北の空に入道雲(黒い)があれば雨になる。



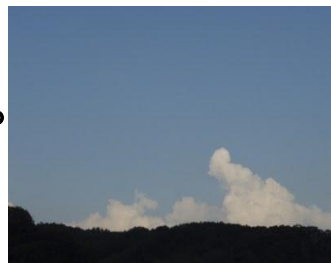
三見の日尾山

大日比から東方を望む

油谷地方

◎久津漁師の言い伝え

- ・久津漁港北西の山頂の木が大幅に揺れていれば、沖合いは時化している。
- ・春、南東の方からにわとり雲が来ると春一番(大嵐)がくる。



にわとり雲(積乱雲)

◎大浦漁師の言い伝え

- ・地風(南東の風)が吹くと西の風が強くなる。



雨乞山

伊上から北東を望む

◎油谷湾漁師の言い伝え

- ・雨乞山に雲がかかると雨となる。
- ・ザレ山(堂ノ山)に雲がかかると雨となる。
- ・トンビの高飛び風が吹く。



ザレ山

大浦から南東を望む

菟地方

◎越ヶ浜漁師の言い伝え

- ・春、遠くの南西方の山々がよく見えると嵐になる。
- ・夏のはやて(雷雨)は騒ぐとケガのもと。(直ぐおさまる)
- ・(寒冷前線が通過するとき)一つ雷が鳴ったら大風が吹くので油断してはならない。



三角山

指月山

越ヶ浜から南西方向を望む

◎後小畑漁師の言い伝え

- ・まじ(南西の海風)が吹けば雨になる。

◎大井漁師の言い伝え

- ・見島が見えると雨が近い。
(低気圧の接近により視界がよくなる)
- ・春秋、ひどい霜が降りたときは、気圧の谷の接近により雨が降る。(霜返し)。

◎大島漁師の言い伝え

- ・冬場、北東の風(北ゴチ)が吹いたら沖合いにいと危ない。

◎見島漁師の言い伝え

- ・冬のイナビカりは、一つ当たっても帰れ。

◎田万川・江崎漁師の言い伝え

- ・春、日没時、黄色の夕焼け(黄砂によるもの)が見えるときは大風が吹く。(春一番)
- ・風がないのに海底の濁りやゆれがあるときは沖合いの波が伝播してきているので時化となることが多い。
- ・うろこ雲が出たら3日のうちに雨か風が吹く(低気圧の接近)。
- ・ツバメが低く飛ぶと雨近し(湿気で虫の羽が重く、低い所に集まるため)。



～海の豆知識～

< 離岸流のことを知っていますか？ >

海水が川のようになって沖へ戻る流れのことです。とても強い流れのため、一旦この流れに乗ってしまうと、逆らって泳ぐことはとても困難で危険です。



◇発生しやすい海岸◇

- ・海岸が太平洋や日本海等の外洋に面しているところ
 - ・遠浅で、海岸線が長いところ
 - ・波が海岸に対して直角に入る海岸
- 以上の3つを満たしている海岸

◇離岸流に流されたら◇

- ・あわてず落ち着き、周りの人に流されていることを知らせる。
- ・決して岸に向かっては泳がず、岸と平行に泳いで、離岸流を抜け出す。
- ・離岸流を抜け出したら、岸に向かって泳ぐ。

<波高と一発大波について>

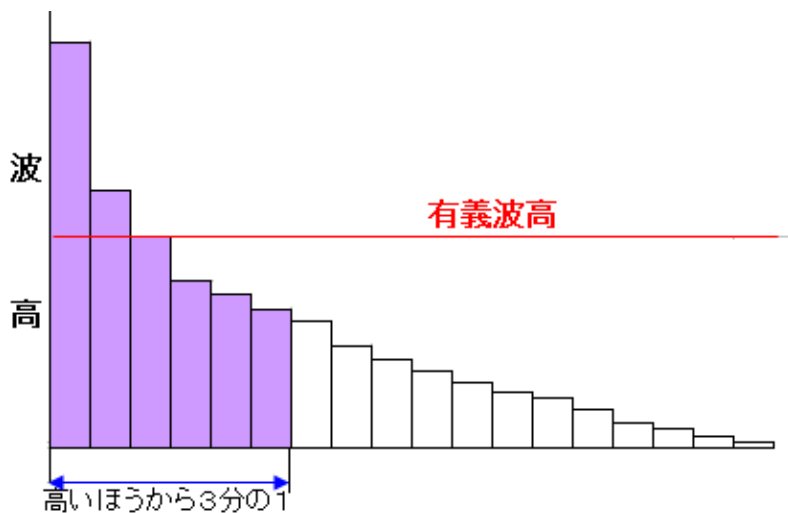
波高は常に一定ではなく、高い波や低い波が混在しています。波浪予報などで使われている波高(波の高さ)は、有義波高と呼ばれる波の高さです。

これは、ある点を連続的に通過する波を観測したとき、波高を高い順に並べなおして全体の1/3までの波の高さを平均した値です。

目視で観測される波高は、ほぼ有義波高に等しいと言われており、一般に波高と言う場合には有義波高を指しています。

現実の海面には有義波高より高い波や低い波が混在しており、同じような波の状態が続くとき、100波に1波は有義波高の1.5倍、1000波に1波は2倍近い巨大波が出現します。この巨大波のことを「一発大波」などとも言います。

このように、想定外の大波に遭遇することがあるので、海のレジャーなどの際には充分注意する必要があります。



<風浪とうねり>

その海域で吹いている風によって生じる波を“風浪”といいます。

遠方の台風や低気圧に伴う風浪が風の吹かない領域にまで伝わって来た波を“うねり”といいます。

うねりは水深の浅くなっている海岸では、波が高くなりやすいという性質を持っています。

このため、沖合いから来たうねりが急激に高くなることもあり、波にさらわれる事故も起こりやすく風が止んでもうねりが残ることがあるので、十分に波・うねりの状況に注意したうえで、マリレジャーを楽しみましょう。

<もしも海に落ちたら>

もし、海に転落したら、海に浮いていることが大切であり、最善の手段は救命胴衣の着用です。

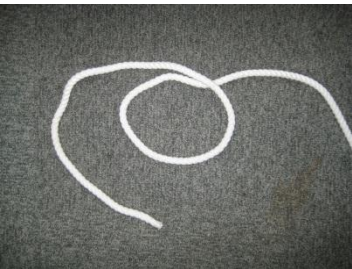
転落した場合は、あわてず、救命胴衣に付いている笛などで助けを呼びましょう。

また、海に落ちた人を見たら、大声で周囲の人に知らせて、目を離さないこと、長い棒やロープを差し出すか、クーラーボックスやペットボトルのような浮くものを投げ入れ、118番に通報しましょう。

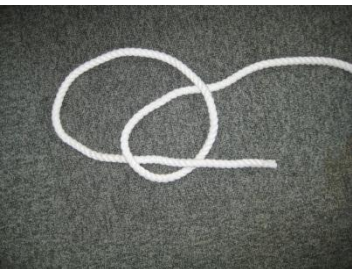
簡単なロープの結び方の紹介

ボートの係留時のロープの結び方やサルカンなどへ糸を接続するときの結び方など、日ごろからの結ぶ練習が「いざ」というときに役に立ちます。そこで下図のような基本的な結びを練習しておきましょう。

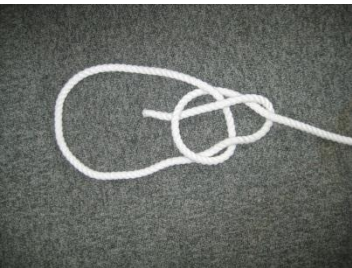
もやい結び(解きやすい)



元の部分を交差させ、輪を作る。
交差させるロープの上下に注意する。



ロープ端を輪の中に下から通す。



ロープ端を元の下に通し、最初にした輪に通す。



ロープ端と大きい方の輪を一緒に持ち、元を持って左右に引き、結び目を締めて完成。

ユニノット(解き難しい)



架ける索に糸を回し、二つ折りの状態にする。



糸の先端を折り返し、輪を作るように再び折り曲げる。



輪の中へ糸を通しながら、3~4回絡める。



糸の先端を強く引き締めた後、本線を引いて索にくっつける

～磯釣り事故防止～

☆自分の命を守る3つのポイントを励行しましょう。

- ・ライフジャケットの常時着用
- ・携帯電話などの適切な連絡手段の確保
- ・118番の有効活用

☆単独行動は止め、複数名で行動しましょう。

☆釣り場や帰宅時間を家族などに伝えましょう。

☆釣り場の地形や状況に注意しましょう。

☆気象情報に注意しましょう。



海の情報の入手

「沿岸域情報提供システム」

(MICS: Maritime Information and Communication System)

沿岸域情報提供システムでは、灯台で観測した最新の気象状況や海上工事・作業の情報、灯台からのライブカメラ映像、また潮汐や航行警報など地域に密着した沿岸域情報提供業務を行っています。ご利用ください。

ホームページアドレス:

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/07kanku/senzaki/>

携帯電話サイト:

<http://www6.kaiho.mlit.go.jp/m/07kanku/senzaki/>

テレホンサービス: TEL 0837-26-5177

緊急情報配信サービス登録:

<http://www7.kaiho.mlit.go.jp/micsmail/reg/touroku.html>



「海のもしもは118番」

海上保安庁は、海上における事件、事故の緊急通報用電話番号として、局番なし3桁電話番号「118番」の運用をしています。

次のような場合に電話してください。

- 海の事故に遭遇した、または目撃した。
- 油の排出等発見した。
- 不審な船を発見した。
- 密航・密輸事犯等の情報を得た。



連絡先	仙崎海上保安部	0837-26-0241 (24時間対応)
	萩海上保安署	0838-22-4999 (夜間は仙崎海上保安部が対応)